

## 第28回安房地域母親大会

～ 生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます ～



# 教育の今、 子どもの未来を考えよう！

講師：前川喜平さん

元文部科学事務次官  
現代教育行政研究会代表



2022年

10月10日(月・祝) 13:30～16:00

会場：千葉県南総文化ホール・小ホール（館山市北条 740-1）

\* 入場無料・資料代 500 円・予約優先（定員 200 名）

### 第一部：講演

<房州弁で憲法を>

### 第二部：トークセッション

#### 【申込先】

090-5434-1535（山口）

090-5762-5956（関）

メール awabunka.npo@gmail.com

#### 【注意事項】

- ◎ 来場者は検温やマスク着用等の感染対策にご留意のうえ、体調不良の場合はご来場をお控え下さい。
- ◎ 感染者激増の場合には、人数制限や中止・延期等もあり得ますので、ご理解のほどお願いいたします。



主催：第28回安房地域母親大会実行委員会 実行委員長：小林道子 副実行委員長：山口智恵子  
構成団体：国連 NGO 新日本婦人の会館山支部、国連 NGO 新日本婦人の会鴨川支部  
国連 NGO 新日本婦人の会鋸南やまゆり班、安房地区女性連絡会  
全日本年金者組合安房支部、NPO 法人安房文化遺産フォーラム  
後援：館山市教育委員会、南房総市教育委員会、鴨川市教育委員会、鋸南町教育委員会  
連絡先：TEL 090-5434-1535（山口）、090-5762-5956（関）、各構成団体役員  
メール awabunka.npo@gmail.com



## 教育の今、子どもの未来を考えよう！



### 【開会趣旨】

新型コロナウイルスのパンデミックも3年目となり、子ども達を取り巻く環境は大きく変わりました。大人の働き方も変わり、仕事が減ったり、リモート会議が増えたり、家にいることが多くなった等々、家庭の様子が変わりました。学校や学級の閉鎖やリモート授業などにより、子ども達も家にいる時間が増えました。

パソコンやゲームの時間が増えた一方、物価の高騰などで食事が貧しくなり、子どもの身体への影響が心配されています。また、友達との会話や遊びが制限されたり、学習の機会が減ったりして、子ども時代に必要な経験が足りなくなり、社会性の発達不全が危惧されています。

そのなかで、「どんな親の元に生まれたかで幸せかが決まる」という考え方を表わす「親ガチャ」という言葉が流行語になり、教育格差や貧困の連鎖にあきらめの風潮が広がっています。生き生きとした子ども達の日常を取り戻すのは、私たち大人の責任です。「子ども達により良い未来を手渡したい」という思いは人びとの共通の願いであり、母親大会の原点でもあります。

コロナ禍の収束が見えにくい今、さらに教育環境が変化していくであろうことを踏まえて、本大会は、「教育の今、子どもの未来を考えよう！」というテーマで企画しました。講師に元文部科学省事務次官の前川喜平さんをお招きし講演の後、会場とのトークセッションを通じて、子ども達のおかれている現状を知り、子ども達の未来に対して私たちの出来ることは何かをともに考えていきたいと思えます。

### 【講師プロフィール】

前川喜平（まえかわきへい）

1955年奈良県生まれ。東京大学法学部卒業後、79年文部省(現文部科学省)入省。宮城県教育委員会行政課長、ユネスコ常駐代表部一等書記官、文部科学審議官等を経て、2016年文部科学事務次官。17年退官。

加計学園の獣医学部新設にかかわる疑惑について、憲法遵守の官僚の矜持を貫き、国会の場でも証言している。

現在、自主夜間中学のスタッフとして活動。現代教育行政研究会代表。おもな著書に『コロナ期の学校と教育政策』『日本の教育、どうしてこうなった？ 総点検・閉塞 30年の教育政策』『これからの日本、これからの教育』などがある。

